

# 今がヤマ場！

## みんなで守ろう 石北本線

一昨年、JR北海道が発表した「単独では維持困難な路線」に石北本線が含まれ、JR北海道はバス転換や、線路などを地元自治体が保有する上下分離方式などについて相談したいとの意向を示しています。

また、JR北海道は、このままの収支状況だと、平成32年度には資金繰りが立ち行かなくなると見込んで



JR北海道の島田社長は新聞のインタビューで「今年には、課題解決の年にしなければならぬ」と語っています。今後、国も含めてますます高いステージでの協議が急ピッチで進められ、今年の夏頃までに一定の方向性が出されることとなっています。

遠軽町においては、昨年12月に町、遠軽商工会議所、

おり、限られた時間の中で問題解決を図っていかねばなりません。

昨年10月、高橋はるみ北海道知事が遠軽入りし、北見市長、遠軽町長をはじめ、石北本線沿線地域の経済団体や医療、教育関係者とJR問題についての意見交換会を行い、12月には、道も一定の財政支援をする意向を発表。膠着状態といわれていた状況に動きが出る兆しがあります。

### 遠軽町石北本線利用促進 キャッチフレーズ

遠軽商工会議所では、石北本線の利用促進に向けた意識高揚を目的に、町内の小中学校、高校の児童生徒から石北本線利用促進キャッチフレーズを募集しました。

これに対し、626作品の応募があり、審査の結果、東小学校6年の佐藤にこさんの作品が最優秀賞に選ばれました。



▲最優秀賞に選ばれた佐藤にこさん。「石北本線の大切さをみんなに知ってもらい、残してほしい」。

えんがる商工会及びえんがる町観光協会の4団体で、全道でも例がないという「遠軽町石北本線利用促進協議会」を立ち上げました。遠軽町という一つの町では解決できない大きな問題ではありますが、地元としての姿勢を示すことが、石北本線の維持に向けた道筋につながります。鉄道の利用を少しでも増やして、みんなで石北本線を守りましょう！

- 1 遠軽町出身の漫画家である安彦良和さんが作品に携わった「機動戦士ガンダム」のラッピング列車を走らせる
  - 2 「生田原駅」を「生田原温泉駅」に改名する
  - 3 貨物列車(玉ねぎ列車)の撮影イベントツアーを開催する
- 同時に、町民の皆さんから利用促進のアイデアや意見を募集しました。お寄せいただいたのはメール1件のみでしたが、次のようなアイデアをお寄せいただきました。
- 「地方に住む通院者などのことも考えて長距離の路線は残して」(50代女性) ほか
- ご意見をいただいた皆さん、ありがとうございます。実現には課題もありますが、JRや沿線関係者にも伝え、皆様の声の反映に努めていきます。

**広報**  
**えんがる**  
**瓦版**  
かわらばん  
**JR問題特集号**

2018年(平成30年)  
 1月20日(土)  
 発行：遠軽町役場 総務部企画課  
 電話 42 - 4818  
 FAX 42 - 3688

### 住民の声

昨年7月号の広報えんがるでは「乗らなければ無くなる！石北本線」というタイトルで石北本線の現状などを紹介しました。

「利用している路線を無くないで」(町外から遠軽高校に通う生徒)

また、オホーツク圏活性化期成会(会長 辻直孝北見市長)が実施した利用者アンケートでは次のような意見もいただいています。

何うして石北線鐵道の線延をするのか？

# 石北本線開通に尽力した先人たち

# カボチャ団体の陳情

記者 谷 園

襟巻と北東の風を銜いて、青塗バラック建の鐵道省の玄関口に到ると、珍らしくも數十足の下駄が並んであつた。そうして受付に刺を通じて某長官に面會を求めると、驚くべき

を取圍んで口角沫を飛ばして等々對して一種の同情心が起

今から100年近く前の大正13年、遠軽から旭川までの鐵道を建設する工事が、前年に起きた関東大震災などの影響で延期されることとなりました。鐵道の開通を待ち望んでいた当時の遠軽村の住民たちは大変驚き、50余名が東京に行つて、鐵道大臣らに早期開通を訴えました。この一行が「カボチャ団体」です。彼らの活動が政府の決定を覆し、翌年には工事が着工されることになりました。

彼らは、「鐵道がないために輸送費がかかり、米の値段が高くて食べられない。だから、カボチャばかり食べている。何とか早く鐵道を通してほしい」と、カボチャの入った弁当を携えて国会や官庁で連日訴えま

た。国会の控室などでカボチャ弁当を広げて食べる農民風の異様な光景が、新聞や雑誌で「カボチャ団体の陳情」として大きく取り上げられると、見物や激励にたくさんの方が集まるほどに話題となりました。

鐵道大臣との会見の場では、涙ながらに地域の実情を訴える姿に、警備をしてきた警官までもがもらい泣きましたといひます。

このように、石北本線は多くの先人たちの苦勞によつて実現し、敷設後は、木材の搬出など産業の発展に大きな貢献をしてきました。こうした歴史を学ぶことで鐵道の重要性を見直し、それをより多くの人に訴えることが今、求められています。

鐵道大臣に地域の実情を訴える「カボチャ団体」



▲イラストは、遠軽町出身で機動戦士ガンダムなどで有名な漫画家の安彦良和氏に描き下ろしていただきました。



▲実際の陳情団。

ジオのカフェ「Geo Cafe」第13弾  
北海道150年記念イベント  
「ほっかいどう百年物語」から考える  
「えんがる」の未来

■日時 1月22日(月)午後6時30分～8時  
■会場 日本キリスト教会遠軽教会  
■講師 ノンフィクション作家 佐々木信恵氏  
■内容 カボチャ団体の話を中心に、歴史と鐵道の意義からまちの未来を考えます。  
■対象 どなたでも  
■参加料 無料  
■申込み 不要です。直接会場にお越しください。

東 宮上へ  
へしての相談

父作之進氏へ  
「死刑」の電報

犯せる者は  
同じ死の途へ

新宿御苑  
バラック

▲当時の新聞記事。